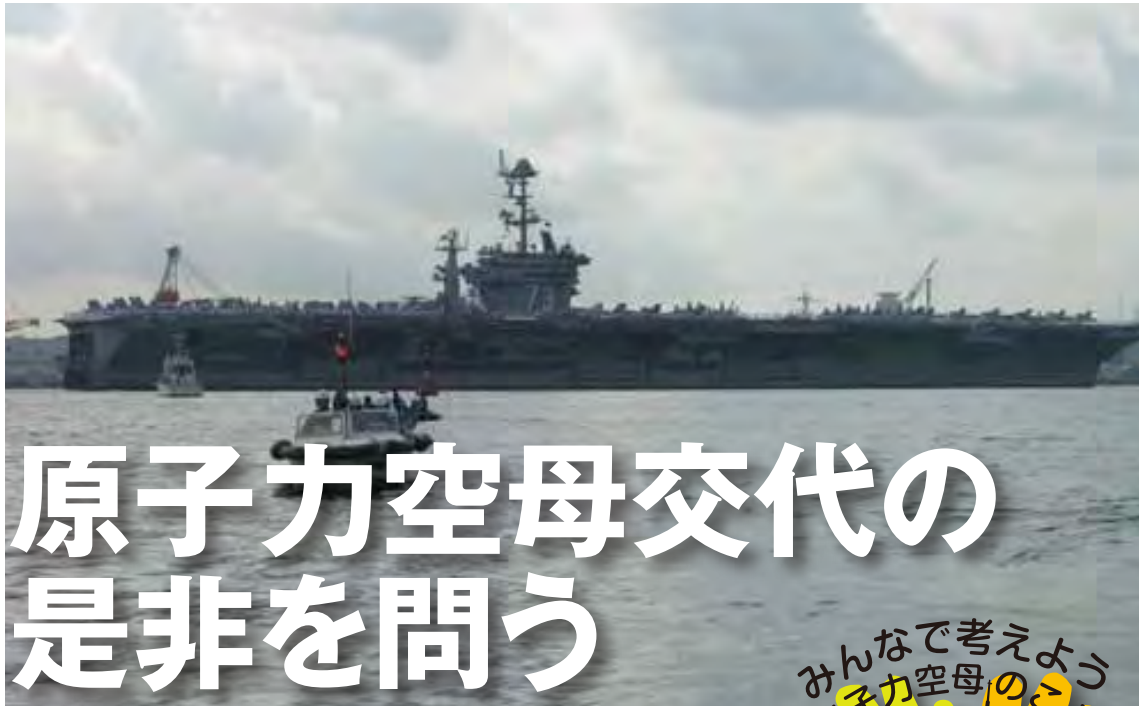
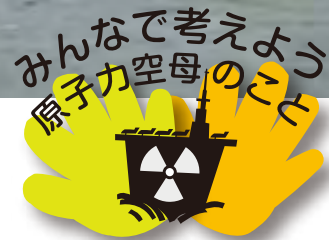


原子力空母の交代を問う市民アクション



原子力空母交代の
是非を問う

10,000人 市民アンケート 報告書



2015.9.17

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

〒238-0008 神奈川県横須賀市大滝町1-26 清水ビル3階 横須賀市民法律事務所方

電話:046-827-2713 FAX:046-827-2731

経過説明

これまでのうごき

2005年10月、日本政府は横須賀基地への原子力空母の配備を発表。当初市長も市議会も、原子力空母の横須賀配備に反対を表明しましたが、日米政府の強い働きかけもあって、2006年市議会全員協議会で配備が容認されました。

市長、市議会は原子力空母の配備を容認しましたが、市民有志はこれを横須賀の将来にわたる重要問題と受け止め、配備は市民の総意で決定すべきと「住民投票」の実施を求める運動に踏み切りました。

2006年10月、「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」が結成され、2度の住民投票条例の直接請求に取り組みました。

住民投票条例の直接請求は横須賀では初めての取り組みでしたが、予想を超える多くの賛同署名があつまり(2007年2月・40,000筆、2008年5月・52,000筆)、条例案は市議会に提案されました。しかし、横須賀市議会は2度とも条例案を否決。2008年9月25日、市民の意向は問われないまま、原子力空母ジョージ・ワシントンは横須賀に配備されました。

配備の翌年から、横須賀基地内での原子力空母の定期修理が始まり、修理で発生した放射性廃棄物の搬出が繰り返されました。横須賀基地内での定期修理も、放射性廃棄物の艦外搬出も、日米合意によって「しない」と約束されていたものでしたが、米海軍は約束を無視し、日本政府もそれをとがめることはありませんでした。

そして2011年3月11日、福島原発事故が起きました。

原子力空母の交代

配備から6年後の2014年1月、原子力空母の交代が発表されました。

「成功させる会」は、ジョージ・ワシントンからロナルド・レーガンへの交代は、単なる交代ではなく、原子力空母母港の恒久化ととらえ、改めてこの町の民意が確認されるべきと考えました。

民意はどのようにすればはかれるのか。2度の市議会での条例案の否決は、大きな重しでした。そこでたどりついた結論が「住民投票条例の直接請求を迂回し、市民に直接賛否を問う「10,000人市民アンケート」です。

10,000人市民アンケート

「10,000人市民アンケート」には、「世論調査」と「賛否を問う」のふたつの性格があります。そのために、できるだけ正確な「調査」と、広範な市民意識の「出会い」が両立するように、アンケート手法を工夫しました。10,000人は、できるだけ多くの市民との「出会い」を物語る事ができる数として、目標としたものです。アンケート実施期間は5月6日から8月20日の4ヶ月間。

具体的には、アンケート手法として①街頭での面談聞き取り、②依頼、訪問、電話での聞き取り、③全戸配布リーフレットによるアンケート用紙の回収、④ホームページでのアンケート収集、⑤アンケート調査会社への依頼、⑥集会等でのアンケートの回収、⑦団体等への調査依頼等を実施しました。アンケート総数は12,059通（締め切り後に届いた213通を加えると12,272通、9月7日現在）。目標の10,000人を大きく超えることができました。団体等への調査依頼には、基地で働く方々の組合、「全駐労」の協力も含まれます。

①から⑤までをA群とし、「市民意識」の分析対象としました。⑥、⑦をB群とし、分析の参考データとしました。

市民版パブリックコメント

「10,000人アンケート」では質問3項目とは別に、意見の記入欄を設けました。基地問題に関して、市民の思いが簡単ではないことは、市が実施しているいくつかの市民アンケートからも知ることができます。記入欄を設けることで、その多面的な市民の思いが、少しでも明らかになればと考えました。

意見記入は4,237通に及びました。横須賀市は原子力空母の交代に関して、1回の説明会も開催せず、パブリックコメントも求めています。4,237通の記入意見を「市民版パブリックコメント」として読むために、傾向を15項目に分類しました。基地を抱える市民の、多様な思いがここに表れています。



「10,000人市民アンケート」イメージ

市民アクション

「10,000人市民アンケート」は、「原子力空母の是非を問う市民アクション」の三本柱のひとつとして取り組まれました。

①原子力空母交代問題を市民に知らせるリーフレットの市内全戸配付(12万部)。

②市内5地区で、原子力空母の安全性、防災問題の出前説明会と意見交換会の開催。危機管理課の小貫課長は5地区全てに出席してくださいました。

3番目が「10,000人市民アンケート」です。

市民アクション活動日誌

- 5月6日 リーフレット全戸配布開始
- 5月6日 街頭アンケートスタート
- 5月10日 市民アクションスタート集会
- 5月18日 G・ワシントン出港
- 5月24日 久里浜・北下浦地域集会
- 6月7日 衣笠・西地域集会
- 6月14日 追浜・田浦地域集会
- 6月20日 本庁・逸見地域集会
- 6月28日 大津・浦賀地域集会
- 7月29日 アンケート10,000人突破
- 8月9日 街頭アンケート最終日
- 8月20日 市民アンケート締め切り
- 9月19日 市民アンケート報告集会



スタート集会



衣笠・西地域集会



馬堀海岸アンケート

どうする? 「レーガン」

原子力空母の交代を問う
市民アクション



これから
原子力空母と
いつしよに
暮らしますか

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会
〒238-0008 神奈川県横浜市中区大港1-26 清水ビル3階
横浜市民法政会事務局
電話:046-827-2713 FAX:046-827-2731



京急中央駅Yデッキアンケート

●アンケート用紙

1万人アンケートにご協力下さい

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

原子力空母ロナルド・レーガンの配備前に、市民の声を、市、県、日米両政府に発信していくため、市民アンケートを行っています。あなたのご意見をお聞かせください。

- 1万人市民アンケートのご回答は、お一人1通とさせていただきます。
●下記のいずれかに○をつけてください。

1)横須賀に配備されている原子力空母が、今年後半に交代することをご存知でしたか。

- ①()知っていた ②()知らなかった

2)原子力空母に関する米軍、日本政府や横須賀市の安全対策をどう思いますか。

- ①()十分 ②()不十分 ③()わからない

3)横須賀に原子力空母が配備されていることについて、どう思いますか。

- ①()賛成 ②()反対 ③()どちらともいえない

4) そのほか、原子力空母に関するあなたのご意見をご記入ください

●ご記入いただいたあなたの

性別 ①()男性 ②()女性

住居 ①()横須賀市内 ②()横須賀市外

年齢 ①()10代 ②()20代 ③()30代 ④()40代 ⑤()50代
⑥()60代 ⑥()70代 ⑦()80代 ⑧()90代～

●記入日 2015年 月 日 ご協力ありがとうございました。

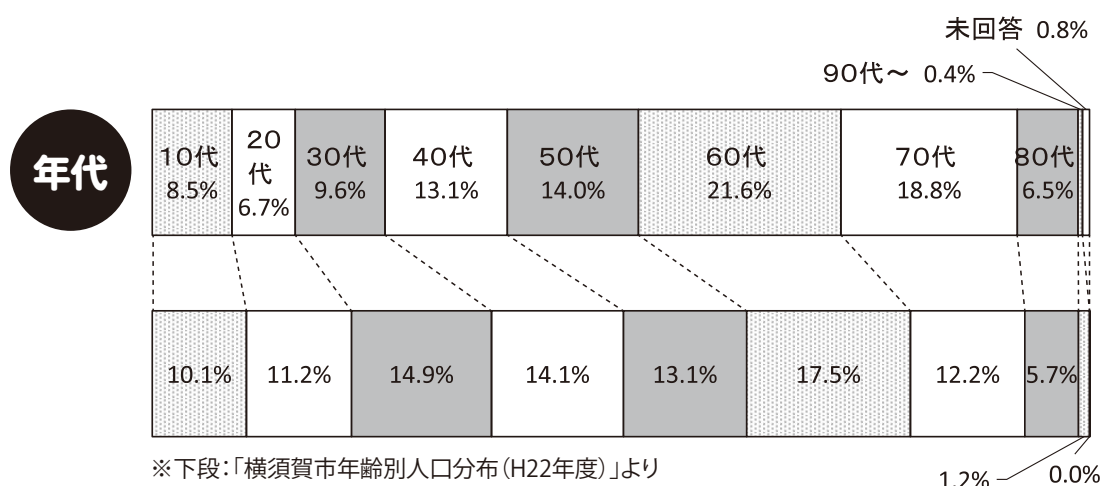
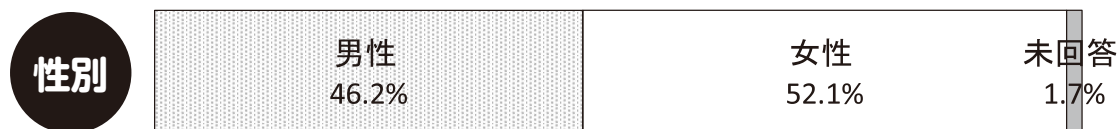
■管理者用

A) 頂いた場所() B) 頂いた方法(街頭/お宅訪問/)

C)備考() D)担当者名() E)集計 ☐

アンケート総数は 12,059 通

「10,000人市民アンケート」は、5月6日からスタートし8月20日に締め切られました。
アンケート総数は12,059通。性別、地域、年代比は以下の通りです。



表－1は手法別のアンケート数ですが、一番多いのが街頭での聞き取りです。主な聞き取りの時間帯は12:00～17:00ですが、この時間帯はどうしても30代、40代、50代の市民が少ない傾向にあります。この年齢ギャップを解消するために、インターネット調査会社にアンケートをお願いしました。インターネット調査は、街頭とは逆に30代、40代、50代のサンプルが多く集まる傾向がありますので、バランスをとることができたと思います。

インターネット調査会社のサンプル数は1,000。意見記入欄はありません。

表－1

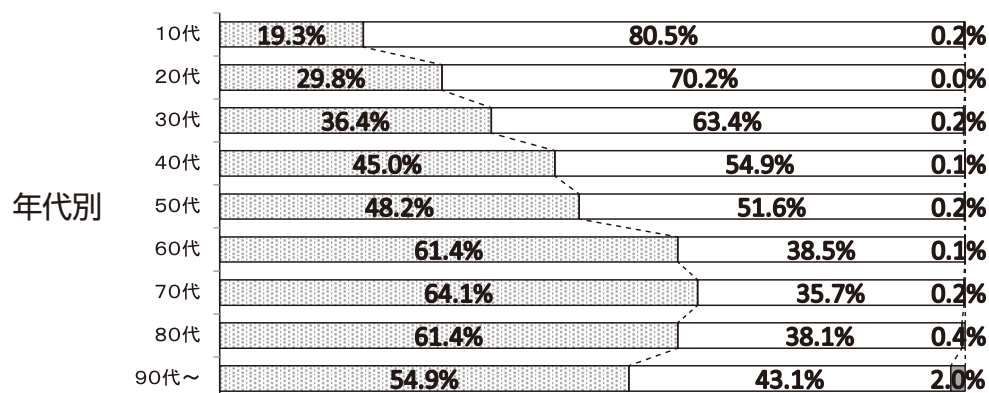
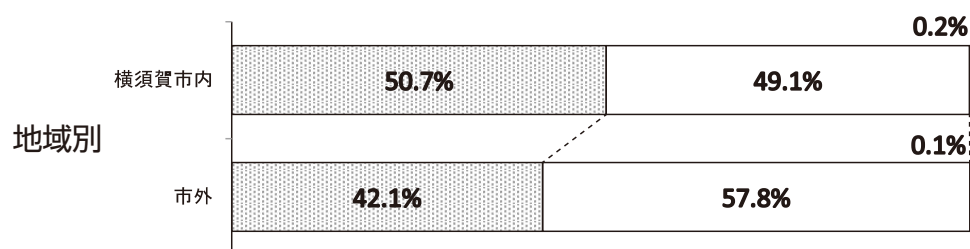
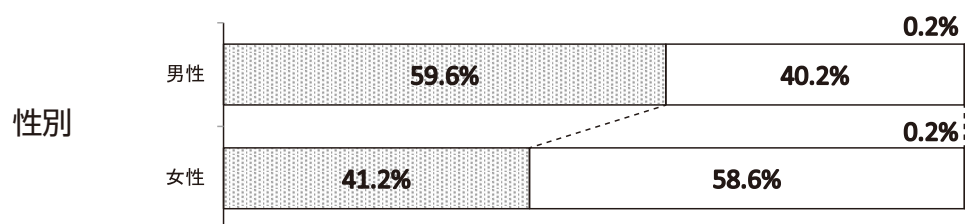
アンケート手法		件数	比率
A群	①街頭面談聞き取り	3,987	33.1%
	②依頼、訪問、電話等	4,393	36.4%
	③全戸配布リーフレット	336	2.8%
	④HPでの収集	334	2.8%
	⑤アンケート調査会社	1,000	8.3%
B群	⑥各集会	306	2.5%
	⑦団体への依頼	1,703	14.1%

表－2

カテゴリー	件数	比率
A群	10,050	83.3%
B群	2,009	16.7%
総計	12,059	100%

1

横須賀に配備されている原子力空母が、今年後半に交代することをご存知でしたか



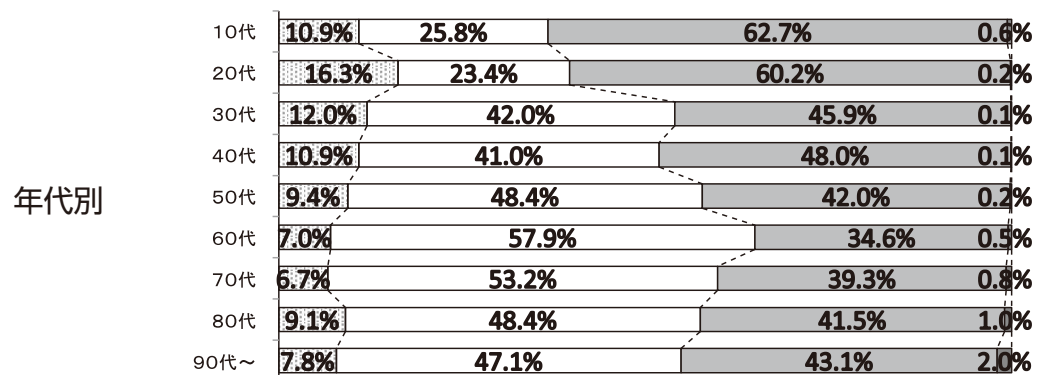
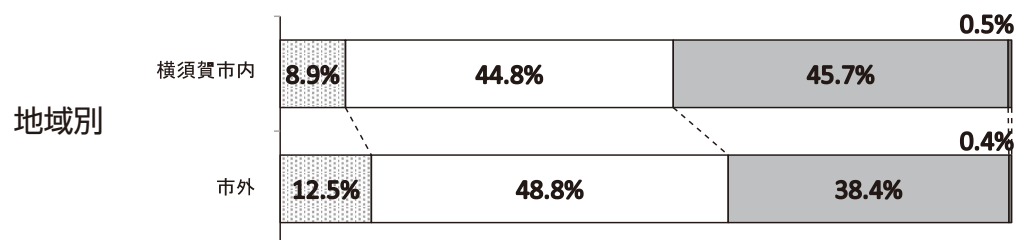
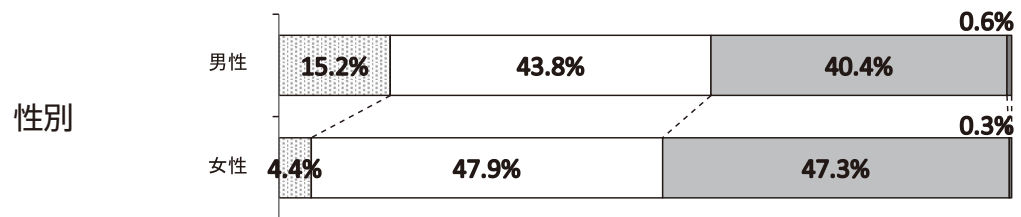
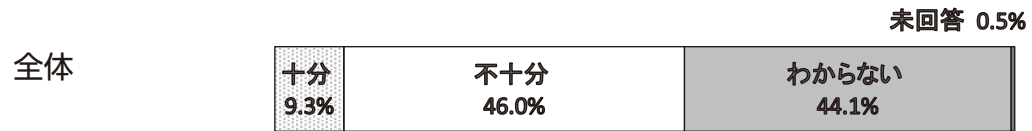
コメント

原子力空母の交代を知っていた市民は49.7%、ほぼ半数だった。性別では男性が「知っていた」が高く、女性を18.4ポイント上回った。年代が下がるにつれて「知らなかった」が増えている。

2013年に行われた「市民アンケート」(19ページ参照)で、「原子力空母が配備されていることを知っているか」の問いに、約90%が「知っている」と答えていた。

半数の市民が空母交代を「知らない」のはなぜか。交代の事実が市民には十分伝えられていないこと。さらに、原子力空母の配備が7年間続く中で、交代が新たな問題とは認知されていないことが考えられる。

2

原子力空母に関する米軍、日本政府や横須賀市の
安全対策をどう思いますか

コメント

安全対策に関して「十分」はわずか9.3%、「不十分」は46.0%だった。安全対策の内容が「わからない」という市民は44.1%だった。

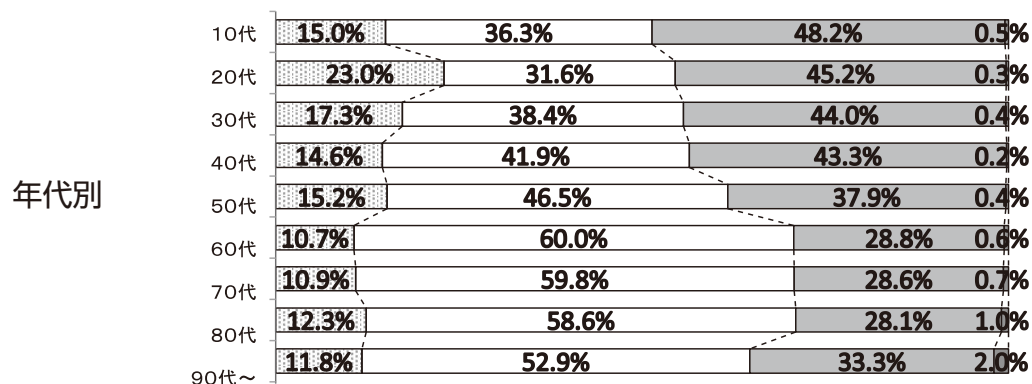
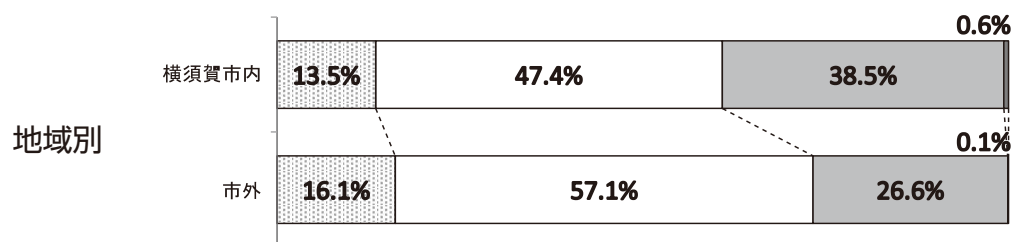
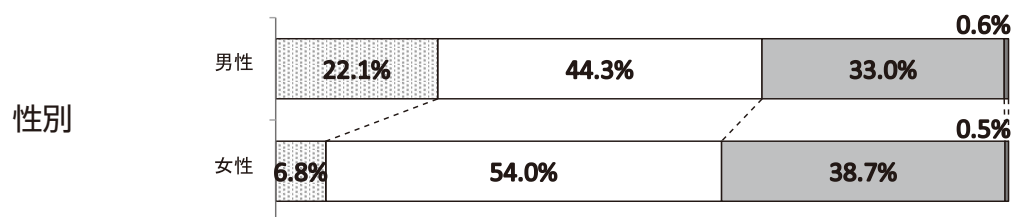
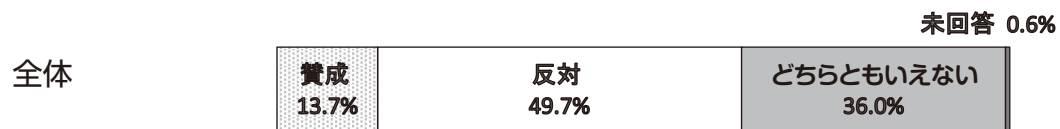
安全対策の具体的な内容はわからなくても、「十分」だという実感が持てないがゆえに、「わからない」ではなく「不十分」と答えた市民も多かったと思われる。

年代別では、10代、20代に「わからない」が多かった。

2013年のアンケート(19ページ)でも、安全対策が「十分」と評価した市民は15.2%だった。「十分」との評価が、今回さらに下がっていることを見ても、ここに課題があることが明らかになった。

3

横須賀に原子力空母が配備されていることについて、
どう思いますか



コメント

原子力空母配備から7年が経過したが、「賛成」は13.7%、「反対」は49.7%。半数の市民が原子力空母の配備に「反対」と答えた。女性は54%が「反対」だった。「どちらともいえない」と答えた市民は36.0%だった。

配備「反対」の意見に、市内と市外に大きな差が出た。「市外」では57.1%が反対と答え、その分「どちらともいえない」が26.6%と減少した。「市内」の「反対」は47.4%で、「どちらともいえない」は38.5%だった。

ここに横須賀市民の「多様な思い」が表れているように思える。反対だけど…のあとに続く様々な言葉があり、結論として「どちらともいえない」を選ぶ市民が少なかった。

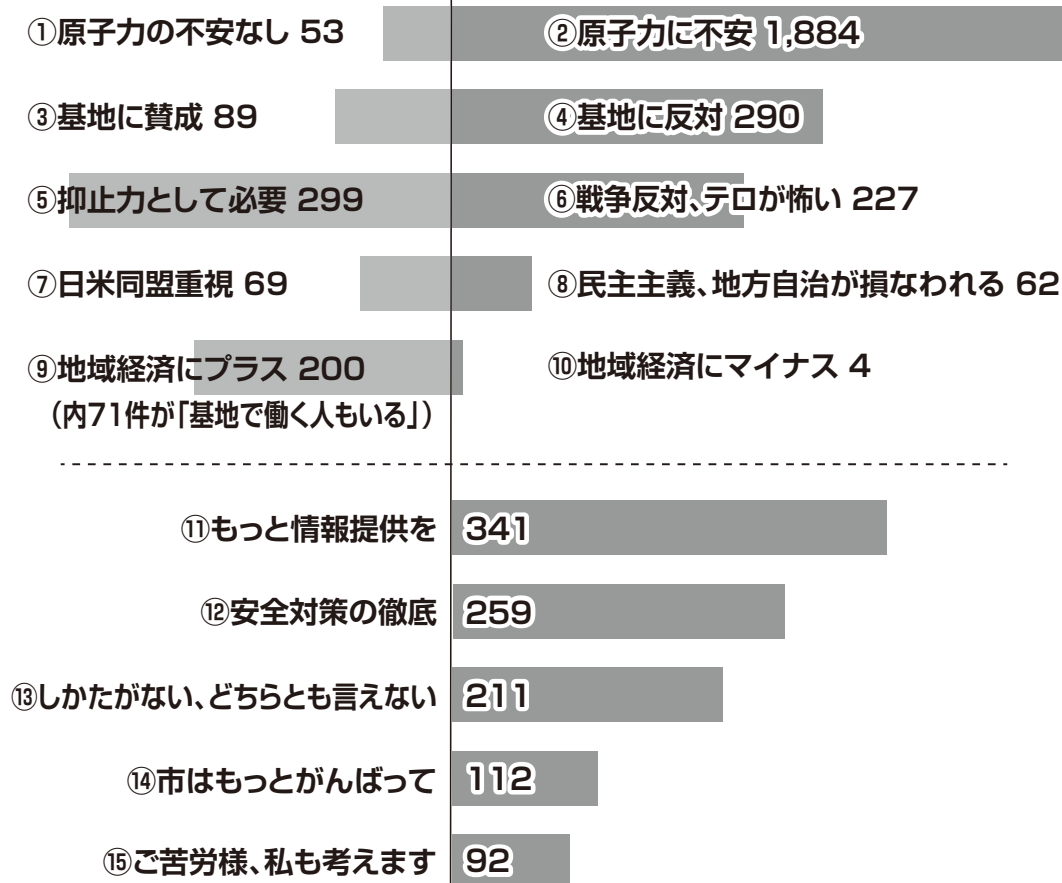
→記入意見の分類(10ページ)を参照。

4

そのほか、原子力空母に関するあなたのご意見をご記入ください。

記入意見総数:4,237件

4,237件の意見の傾向を見るために、15項目に分類した。



注:分類しきれない「その他」が410通(8.9%)あった。

コメント

アンケートが原子力空母をテーマにしたものだから予測はされていたが、記入意見の41%、1,884件が②「原子力に不安」だったことは、やはり特筆すべきことだろう。

「配備について」の問いに「賛成」と答えた中にも、23件の「原子力に不安」があった。「配備について」、「どちらともいえない」の中には、161件の「原子力に不安」があった。

次に多かったのが⑪の「もっと情報提供を」(7.4%)だった。

分類の①から⑩は、それぞれ対応するように整理されている。基地の存在に関しては反対が多く、⑤「抑止力として必要」と⑥「戦争反対、テロが怖い」、⑦「日米同盟重視」と⑧「民主主義、地方自治が損なわれる」はそれぞれ均衡している。地域経済の分類では⑨「プラス」が圧倒的に多かったが、そのなかには基地で働く皆さんへの配慮を示す意見も71件(⑨のなかの36%)あった。市への期待は全体の2.4%だった。



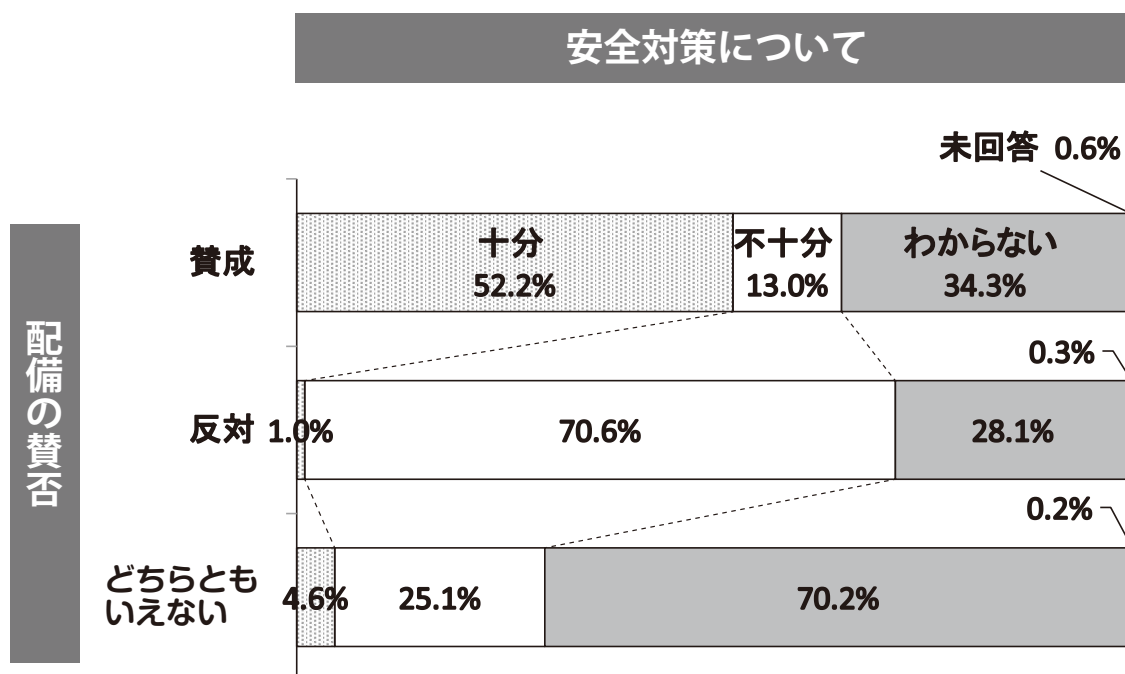
記入意見一覧

記入意見15分類

No.	内 容	件数	%
①	原発より安全、原潜も入っている	53	1.2
②	原子力は危険、事故が怖い、心配はある	1,884	40.9
③	米軍基地に賛成、基地があるから、何をしても変わらない	89	1.9
④	米軍基地に反対、できるならないほうがいい	290	6.3
⑤	抑止力として必要	299	6.5
⑥	戦争反対(テロが怖い、平和が大切)	227	4.9
⑦	日米同盟重視	69	1.5
⑧	民主主義、地方自治が損なわれる	62	1.3
⑨	地域経済活性化にプラス、基地で働いている人もいる	200	4.3
⑩	地域経済にマイナス	4	0.1
⑪	もっと情報提供を	341	7.4
⑫	安全対策の徹底	259	5.6
⑬	しかたがない、何をしても変わらない、いろいろ考えてどちらともいえない	211	4.6
⑭	市はもっとがんばって	112	2.4
⑮	ご苦勞様、がんばってください、私も考えます	92	2.0

分類しきれない「その他」が410件(8.9%)あった。
 複数の項目に分類された意見があり、分類後の意見総数は4,602件。

クロス集計(配備の賛否×安全対策)



コメント

原子力空母の「安全対策」に関して、「配備」に「賛成」意見では、半数以上が「十分」と答えた。逆に「配備」に「反対」意見では、70%が「不十分」と答えた。安全問題が賛否判断の大きな要因であることが、あらためて確認された。

原子力空母の「配備」に関して「どちらともいえない」と答えた意見の70%が、「安全対策」の内容が「わからない」と答えている。安全対策の内容が不明であることが、配備についての判断を下せない結果につながっていると思われる。ここにも、「安全対策」が賛否判断の大きな要因であることが表れている。

原子力空母の交代について

- 以下は自由記入欄への記入意見の抜粋。
- 文意が伝わる範囲で要約して掲載しました。

【知っていた】

●原発同様に危険なものであることを多くの市民は知らない。知る努力をすべきと思う。(女性・市内・70代)

●横須賀市からの情報が少ないので、多くの市民に知ってもらえれば、安全対策への議論も深まると思います。(女性・市内・50代)

●学校で基地見学会を行い、その時にこの話があったそうです。興味がない人がたくさんいることが問題なのではないでしょうか。(女性・市外・40代)

●この前、軍港めぐりに乗った時に、船内のアナウンスで交代を知りました。(女性・市内・30代)

【知らなかった】

●横須賀が大好きで家族が住んでいるこの街を守りたい。自分の中で「知ること」を意識し、耳を傾けていこうと思います。(女性・市内・60代)

●原子力空母に関する情報が市民に伝わっていないと思う。(女性・市内・60代)

●ニュースに出てこないからわからない。先生も教えてくれない。(男性・市内・10代)

●安保条約が重要視されている現在、多少の妥協は必要かと思いますが、原子力空母があるということが、横須賀に原発があるのと同じということを知りませんでした。(女性・市内・10代)

原子力空母の安全対策について

【十分】

- 下手な原子力発電所より安全と考える。(男性・市外・30代)
- 抑止力のひとつとして空母は重要。空母を一度見学しましたが安全管理はまずまずでした。(男性・市内・70代)
- 米原子力艦の関係者達は放射線や原子力について知識や技術もあり、その恐ろしさをしっかりと認識しており、取り扱いも慎重で安全性を一番に考えています。私は米海軍基地で働く人々は徹底した教育を受け、間違っても事故が起きないような幾重にもわたる安全対策がとられていると思います。(女性・市内・50代)
- 原子力空母は安全です。船の場合は特に安全に作っているのでなお安全です。今後とも配備される事を望みます。(男性・市内・70代)
- ベースに勤務していた。乗員等のトレーニングの厳しさも知っており、安全対策は十分と言えるが、気持ちは反対です。(男性・市内・60代)
- 原子力といっても小さな炉だし乗組員も大勢いるのだし、安全対策はしているだろうから反対はしない。横須賀市もうるおっていることだし。(男性・市内・60代)

【不十分】

- 米軍が安全といえば、すべて安全という態度は地域主権にも反します。空母が東京湾内に進入する際に水先段階での放射性物質のチェックなども可能にすべきです。(男性・市内外不明・60代)
- 汐入在住。事故があれば一発でアウトだろうと時々思う。避難訓練などの対策もなされず、安全神話に乗ったままのように思う。(男性・市内・60代)
- もしもの時の対応が知らされていない。抑止力として米軍が必要と考える住民も多いが、原子力空母とはどんな船か殆どわからず、何が危険なのか、どんな対策がとられているのか認識できない住民がほとんど。(女性・市内・60代)
- 中国の侵略について、米国と協力して守るのは大切だが、原子力空母の安全性は疑問。(女性・市内・70代)
- 原発と同じ(?) 原子炉が横須賀にある事を市民は知らされていない。もし事故が起きたとき、米軍はどう対応し、日本政府・市はどう動くのか、どう市民を守るのか知らされていない。(男性・市内・70代)
- 二重基準があるのはおかしい。原子力災害対策指針には、原発だけでなく原子力艦も含まれるべきだと思います。(女性・市内・50代)

【わからない】

- 情報が少ない。安全だと言うが判断材料がない。(女性・市内・70代)
- 今米国(空母) 来なくしたら、朝鮮中国ロシアは大喜びでしょう。母港化賛成です。安全安心など今の世の中にはないのです。飛行機・電車・船・自動車事故になれば大変です。(男性・市内・70代)
- 市外から遊びに来た。全く聞いたことはない。(男性・市外・10代)
- 安全なのかどうか知るすべが無くてわからない。(女性・市内・40代)
- 原子力空母を運用する乗組員にはある程度安全対策等の教育、訓練、情報公開等がなされていると思います。横須賀市に原子力空母の事故など専門部署とか専門家がいますのか? 事故の時は1分1秒が大切なのに。まさか政府や県にお伺いを立て、対策の返事を待つのか? (男性・市内・50代)

原子力空母の配備について

【賛成】

- トモダチ作戦に参加したロナルド・レーガンの母港が横須賀になることを歓迎したいと思う。(男性・市外・10代)
- 原子力船であるからどう、ということではなく、安全保障を同盟国とはいえ他国には違いない米国に頼りきっている現状を危険視すべきではないか。ただし今すぐに自衛隊に全てを任せさせることは当然不可能ですから、中長期的に米海軍が駐留することは許容しなければならないでしょう。(男性・市内・20代)
- 空母配備の非を主張するなら現実的な対案を出すべきだ。確かに安全対策に不備がある感は否めない。ならば、どうすれば安全が確保されるのか。安全対策の具体案をみんなで考えるべきだ。また米軍に頼らないというのであれば、米軍なしで現実的に日本の安全保障は確保されるのか。自衛隊を自衛軍に格上げするのか。本当に日本だけで中国や北朝鮮、イスラム過激派集団の脅威に対応出来るか。空母による抑止力効果は絶大であり現時点においては賛成せざるをえない。(男性・市内・30代)
- トモダチ作戦時のレーガン被曝は由々しき問題だが、今や横須賀は米海軍、空母の街として定着し、市のシンボルのひとつとして成立しているものであると考えます。(男性・市内・30代)

- 軍港の街、横須賀。米軍関係で産業・事業が成り立って助かっている業者は多数あると思う。原子力に関しては反対ではない。(男性・市内・40代)
- 世の中平和なので安全だと思う。日本は第二次世界大戦で負けているのではない。(男性・市内・10代)
- 日本の軍港としての此れからの発展をどうするのかを検討して頂きたい。市内これから人口減少、企業の先細り等市民の負担は大きくなります。ただ反対、反対では何も生まれない。将来を考えてください。(男性・市内・70代)
- 横須賀＝原子力空母(ミッドウェイなど)というのが当たり前感覚で40年暮らしているので、何故反対なのか?という気持ちです。大賛成という訳でもないが反対する理由が見つからないのです。(女性・市内・40代)
- 横須賀市の観光行政(軍港クルーズ)の目玉の一つとして、必要なモノと考えております。(男性・市内・40代)
- 6000名以上横須賀にくるので一般家庭(日本人)の人の一戸建て古いマンション等、日本人より高額に貸せるので(18万まで出るので20万で借りても2万だけ)他買い物や食堂など(回転寿司外人がいっぱい入っている)横須賀市民は反対が少ないと思う。(女性・市内・70代)
- 極東の防衛、並びに日米同盟の意義を考えれば、原子力空母の

配備(基地)は賛成です。又、横須賀市の財政上からも必要と考えます。(男性・市内・70代)

●中国からの核ミサイル攻撃と侵略の意図が明白な今日、原子力空母の抑止力は日本の生存の為、必須である。(男性・市内・70代)

●抑止力として必要がある。原子力は完全に安全とはいえないが多少の危険は何事にも起こりうる。心配ばかりしては事は進まない。(男性・市内・70代)

●平和のための抑止力。(男性・市内・40代)

【反対】

●地震国日本には危険な原子力空母はいらない。(男性・市内・40代)

●軍港が観光化されていたりして、市民が原子力空母に対して麻痺している感覚だと思います。地震や津波などの災害があった時等、自分を含めて真剣に考える必要があると思いました。(女性・市内・70代)

●国は市民の意思を大事にしてほしい。住むのにリスク・ストレスが高くなるし、価値が下がるから住みたくなくなる。(女性・市内・50代)

●自宅は厚木基地と空母の通過ルート下にあります。大変騒音で迷惑しています。騒音対策などに力を入れるのではなく、根本的配備反対したいと思います。(男性・市外・60代)

●政府は事故時の責任をとれるのか？安全だと言っているが100%ではないはず。福島を事故をみても国は責任逃れをしているではないか。絶対に配備反対である。(男性・市内・60代)

●三浦在住。半農半漁でくらしている。すぐそばに原子力空母があり、放射能が非常に心配です。(女性・市外・60代)

●危険な原子力空母の母港化には絶対反対。それ以上に横須賀の基地存在に反対。平和には基地も空母もいらない。(男性・市内・60代)

●米軍のすべての基地、配備には絶対反対します。日本が戦争に巻き込まれることになります。(女性・市外・60代)

●とにかく安全が第一!!特に子どもたちに何か害があるっていうのが一番心配。(女性・市内・30代)

●原子力空母があるせいで戦争できる国になりそうですごくこわいです。明るい平和をぜったい消さないで空母・戦争反対。(女性・市内・20代)

●一日も早くアメリカは出て行ってもらいたい。戦後ずっと長すぎる。(男性・市内・70代)

●たとえば原子力空母が配備されないとしても、原潜が寄港する事もある。基地の存在自体に反対です。(男性・市内・30代)

●空母が配備されていることは戦争のみならず、事故やテロ等の際の放射能もれが制御できるか心配である。(男性・市内・70代)

●原子力空母の配備は、長年核持ち込みに反対してきた日本人の思いを全く無視していることの証です。かつてはそれは米国の考えと思っていましたが、いまや日本の政治そのものの問題であることは明らかです。

自分達自身の足元をしっかり見直すためにも空母配備に物申していく必要があると思います。(女性・市内・60代)

【どちらともいえない】

●日本一人口減少が激しい市として、それを止める方策はなんだろうか。基地との共存も必要か？基地がなくなると関連事業者の生活の問題にもなってしまいます。横須賀から原子力空母が出ていったとしても今の安保体制では違う市に移るだけで根本的な解決にはならないのではないかと思う。沖縄の基地問題と同じで代わりに受ける場所としてどこも手を挙げないことからみても一方的に反対を唱えているだけでは進まないと感じる。市長は助成金で共存を図ろうとしています。空母のことだけでなく基地問題とも結びついているので結局どちらともいえないという回答になりました。(男性・市内・50代)

●「原子力」と言う事に関しては、安全性なども考えると良くないと思う。だけど、日本の色々な歴史を考えると、アメリカを全否定できない自分もいる。(女性・市外・10代)

●原子力空母の配備に不安はありますが、米軍基地での雇用は大きく、横須賀を支えているのも事実。ただ反対/不安と思うより共存/安全を求めていきたい。(女性・市内・50代)

●原発と同じように原子力空母も、日本の経済発展とか外交政策のために必要だから横須賀にあるんだろうなという認識があります。空母配備に賛成でなくとも米軍基地がなくなると困っている大勢の人たちが横須賀だけでなく色々な場所に

いると思います。(女性・市内・20代)

●原子力については不安があるし、配備を望まないが、基地がある見返りとして国から援助をうけていることを考えると、どちらともいえない。(女性・市内・60代)

●「配備」は「どちらともいえない」にしましたが、本当は反対ですが、今ある日本の立場や、国のトップがどうしようもない現実を見るといたしかたないのかと…たとえば横須賀に配備されなかったとしても日本のどこか港に、配備は必ずされてしまうのでしょうか。日本人同士これ以上押し付け合ったり、いがみ合ったり、せめて日本国民は皆で助けあい仲良く絆を強く生きて行きましょう。と思います。(女性・市内・50代)

●子供の頃から基地が有り、原子力空母にしろ一般的な空母にしろ、配備は当たり前事に思います。(男性・市内・50代)

●原子力空母に関しての情報が足りなくて、「賛成/反対」「安全/十分か否か」の判断ができない。(男性・市内・20代)

●空母自体は賛成。イージス艦配備もふやしてくれてよい。原子力入ると…。(女性・市内・30代)

●ベースに家を貸している。基地はない方がよいかもしれないが、それでは生活が成り立たない。(女性・市内・60代)

●空母やベースに反対ならそれがなくなったときの代替案をあわせて提示すべき。私も原発反対だが、原発も雇用の問題があったはず。又、今それがなくなったら代替エネルギーをどうするのか。「原子力空母反対・賛成」という狭い角度でなく、大きな角度で考えないといけないから「どちらとも言えない」です。(男性・市内・70代)

意見・要望

●もう少し色々な情報を知らせてほしい。入港状況や人数など。(男性・市内・70代)

●安全面対応も含め市長(市民)が関心を持ち続け、米軍に必要なことは発信し続ける姿勢が大事(友好的かつ現実的な対応)。(女性・市内・40代)

●原子力対策指針に原子力艦船マニュアルを合わせることは当然の事と思い国の対応を要望し続けて行くことを願います。(女性・市内・60代)

●反対、賛成の言葉だけが目立ち、初心者向け学習があまりない。わかりやすい説明会が欲しい。(女性・市内・40代)

●市の配備に関する市民への周知は全く不十分、市議選で争点となることもなく、市民の知るべきがないというのは異常。万一の事故の時、どこへどう逃げれば良いのか、私は知りません。(男性・市内・30代)

●市の危機管理内容を「よこすか広報」に記載する等の努力が足り無い。(男性・市内・70代)

●すべての事が政府間で行われていく事が不満です。横須賀のみならず、横浜・東京・三浦など近隣の住民にとっても大きな問題。(女性・市内・50代)

●沖縄の例のように「基地経済」と「基地のない横須賀の経済」との比較シミュレーションを試算して、未来の基地のない姿を描いて欲しい。(男性・市内・70

代)

●事故発生時のヨウ素剤配布方法に疑問。(男性・市内・60代)

●いつも横須賀は国の言いなりです。市長はもっと政策を勉強し、国と軍に対して市民の立場に立ってほしい。このままにするのならもっと国から援助もらうべきです。たとえば横須賀市は税金が他市より圧倒的に安いとか、医療が全部タダだとか、福祉を全面無料とか。沖縄と同じぐらいもっと国に尽くしてるのに横須賀を大事にして下さい。福島と同じくらいあぶないのに!(女性・市内・50代)

●空母配備に対する国からの交付金を市民のため、特に医療(障害者に対する医療施設完備のため)に限定して使ってほしい。(男性・市内・60代)

●横須賀在住ですが、原潜・空母がいつ入港し、いつ出港しているのかも知らされていないのが現実。市は市民に心配りをするべき。(男性・市内・50代)

●日米安保について再協議してよい方向に持って行って下さい。(男性・市内・40代)

●事故発生時の避難に関する詳細を市及び県として取進めるべき。現在は、屋内へ退避、換気扇回すな…だけで、市民便利帳などには記載がないのでは?(男性・市内・80代)

●原子力空母に関する配備並

びに事故などの説明が無い。我々にもっとわかりやすい説明を求める(政府及び市長)。市長渡米後の報告は市民に対して義務だ。(男性・市内・60代)

●情報がまったく入ってこない為にわからない事ばかり。正しい情報をもっとわかりやすい型で入れてほしいです。(女性・市内・20代)

●原子炉冷却水の処理等廃ウラン等の処理について日本政府の立ち入りによる監視を義務付けして欲しい。(男性・市内・60代)

●情報開示が少ない。隠さず市民には正確に伝えるべき。TV・新聞報道が片寄りすぎ。市民が関心を持つべき。(男性・市内・40代)

●入出港情報を市が出す広報誌などで広報してほしい。HPに出ていると言うが、もっとわかりやすく。お互い身の守りあいをしていいるのだから「反対」とはいわないがもっと情報を公開してほしい。(男性・市内・60代)

●安全対策や安全面についての広報を市としてしっかりやることを要望する。家族がベースに勤めているので、反対ではない。(女性・市内・70代)

提言

市民12,059人の声を聞いたうえで、
私たちは、原子力空母の交代に関して
以下の3点の提言をまとめました。

1

「10,000人市民アンケート」によっても、原子力空母に関する情報の少なさが浮き彫りになりました。日米両政府、とりわけ米海軍による情報公開、市民向けの説明会の開催を求めます。

2

原子力空母の安全性に関して、市民の多くは今なお不安を感じています。安全対策に関しても、厳しい評価がくだされました。原子力空母の横須賀配備に関して、米国、日本政府、横須賀市のそれぞれの責任で、より確かな安全対策が講じられるべきです。

3

原子力空母の配備に関して、市民の中に、根強い反対の思いがあることが確認されました。米国、日本政府、横須賀市はこの民意をきちんと認めるべきです。そして仮に原子力空母の交代がなされた後でも、配備の是非について、市民が直接意思表示する機会があるべきだと思われます。横須賀市は、住民投票も視野に入れた検討を今すぐ開始してください。

関連資料

第3次原子力空母に関する横須賀市民アンケート

調査期間：2013.8.23～25 サンプル数 1000

●横須賀に原子力空母が配備されていることを知っていますか。

全体（男女比補正後）

知らなかった 9.9	知っている 90.1
---------------	---------------

●原子力空母の安全性に関して、米海軍と日本政府の情報提供は十分だと思いますか。

全体（男女比補正後）

十分 13.3	不十分 53.5	分からない 33.2
------------	-------------	---------------

●横須賀に原子力空母が配備されていることについて、不安はありますか。

全体（男女比補正後）

不安はない 39.9	不安はある 44.2	分からない 15.9
---------------	---------------	---------------

●原子力空母の安全性に関して、横須賀市の安全対策の取り組みは十分だと思いますか。

全体（男女比補正後）

十分 15.2	不十分 40.0	分からない 44.7
------------	-------------	---------------

原子力空母の配備は

2007
(第1次市民アンケート)

賛成 21.9%	反対 65.1%	その他 無回答 12.9%
-------------	-------------	---------------------

2008
(第2次市民アンケート)

賛成 22.7%	反対 70.7%	その他 無回答 6.6%
-------------	-------------	--------------------

2013
(第3次市民アンケート)
男女比補正後

賛成 28.2%	反対 39.5%	分からない 32.4%
(≡どちらとも言えない)		

今回
(1万人市民アンケート)

賛成 13.7%	反対 49.7%	どちらともいえない 36.0%
-------------	-------------	--------------------

注) 2007年、2008年の市民アンケートでは、市民の思いを賛否に大別するためにあえて「わからない」、「どちらともいえない」を回答項目として用意しなかった。

その他
無回答
0.6%

留意点

街頭面談聞きとりに関して

1) 街頭アンケートでは、「危険な原子力空母」などの「反対意見の主張」や、意見誘導的な活動は行わず、収集員が1対1で声をかけた。呼掛けの基本は「原子力空母の交代についてのアンケートにご協力下さい」または「市民アンケートにご協力下さい」とした。

2) 呼かけた際に、「自分は基地賛成」「空母は賛成」だとおっしゃって応じてくれない方もいらしたが、その場合は、「反対の意見集約ではなく、市民の考えを率直に聞き取るものであり協力してほしい」とお願いし、答えていただけるよう努めた。



お礼



「市民アクション」に取り組むにあたって、200万円の資金カンパを呼びかけたところ、全国から2,275,757円が寄せられました。カンパを寄せていただいた方、地域集会にご協力いただいた横須賀市市民安全部、アンケートの収集・回答にご協力いただいた皆様にあらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

横須賀市のまちづくりを考える上で大きな課題のひとつ「原子力空母の交代」について、市民にどう伝え、問題提起していくかをテーマにした「市民アクション」でした。

リーフレットの15万枚全戸配布、延べ214名にご参加いただいた5回の地域集会、市内全駅計70回以上の駅頭活動を行った市民アンケート、横須賀に暮らす皆さんの様々なご意見を伺うことができました。

この報告書を読んでもいただき、賛否に関わらず「原子力空母の交代」について、更なるご意見をお待ちしています。